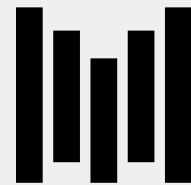


ひ と つ で も 多 く の コ ン テ ン ツ を 、 ひ と り で も 多 く の 人 へ

FINANCIAL RESULTS BRIEFING

株式会社メディアドウ
2025年2月期
通期決算説明資料



Media Do

1 決算ハイライト p.4

2 業績推移 p.10

1. 連結業績
2. 電子書籍流通事業
3. 戦略投資事業

3 26/2期 通期業績予想 p.28

1. 戦略投資事業のサブセグメント変更について
2. 連結業績予想
3. 株主還元方針

通期ハイライト

売上高	1,019億円	(前年同期比 108.4%) (達成率 104.0%)
EBITDA	37.9億円	(前年同期比 111.7%) (達成率 106.5%)
営業利益	24.7億円	(前年同期比 119.8%) (達成率 107.6%)
親会社株主に 帰属する当期純利益	13.6億円	(前年同期比 ー) (達成率 102.5%)

(達成率：期初予想に対する達成率)

売上高・営業利益とも前期比で増収増益、期初予想を達成

- 売上高：電子書籍流通事業において既存商流が成長したことに加え、新規獲得商流が貢献し前期比+8.4%と好調に推移
- 営業利益：IP・ソリューション事業を中心に戦略投資事業における利益改善が進み、4Q営業利益は四半期単位で過去最高。通期全体でも前期比+19.8%となった

4Qトピックス

電子書籍流通事業

- 売上高はLINEマンガ移管以降、過去最高を記録
新規商流の増収効果は一巡したものの、既存商流も好調
- 株式会社アムタスとの業務提携を発表。取次取引の拡大を目指す

戦略投資事業

- フライヤーが東証グロース市場上場・通期黒字化となったほか、NTTドコモの海外向け電子コミック配信「MANGA MIRAI」サービス開始に向けた業務受託売上、オーディオブック事業好調
- 日本文芸社も業績改善傾向がみられ、戦略投資事業全体では通期で前期比297百万円の赤字改善

26/2期業績予想

新中計初年度は過去最高売上高を目指し、再成長フェーズへ

- 売上高 1,060億円（前期比+4.0%）
- 営業利益 27.2億円（前期比+9.9%）
- 親会社株主に帰属する当期純利益 20.0億円（前期比+46.7%）

01

決算ハイライト

Financial Highlights

連結業績ハイライト

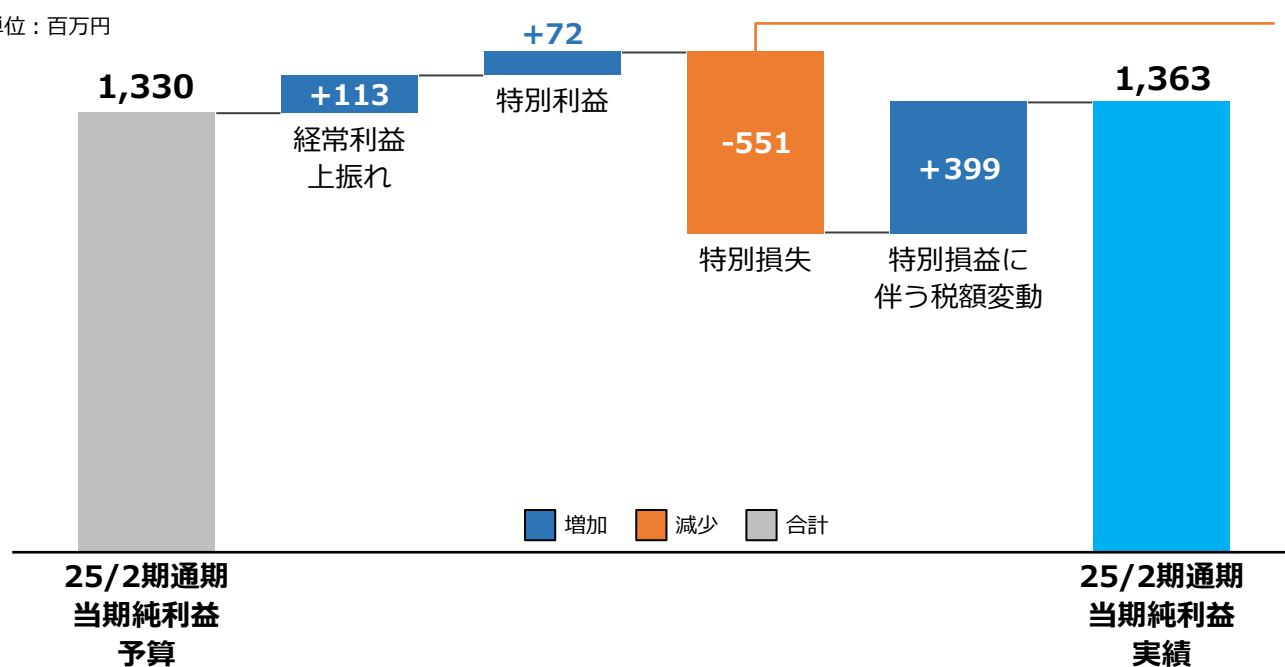
- ✓ 売上高 ----- 電子書籍流通事業において既存商流が前期を上回る成長率となったことに加え、2024年2月に新規商流を獲得したことで、前期比+8.4%となり好調に推移
- ✓ 営業利益 ----- 主に戦略投資事業(IP・ソリューション事業)における利益改善により前期比+19.8%の増益
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益 ----- 営業利益の伸長により、特別損益を計上したものの黒字化

	24/2期 累計	25/2期 累計	前期比
売上高	940億円	1,019億円	+ 8.4% (+79億円)
EBITDA	33.9億円	37.9億円	+ 11.7% (+4.0億円)
営業利益	20.6億円	24.7億円	+ 19.8% (+4.1億円)
親会社株主に帰属する当期純利益	-3.1億円	13.6億円	—— (+16.7億円)

特別利益・特別損失等について

- ✓ 業績改善の兆しはみられるものの買収時計画に対して未達となった日本文芸社、アルトラエンタテインメントについて減損損失を計上
- ✓ 一方で、経常利益が上振れたことに加え、株式譲渡等による特別利益やこれらを主な要因とした税額変動により当期純利益は当初予想を上回って着地した

単位：百万円



特別損失の主な内訳

日本文芸社

主力雑誌の実売部数減や紙コスト増加などデジタル化に遅れが生じた。24年5月に経営陣が交代、業績は改善傾向も計画未達分を減損計上

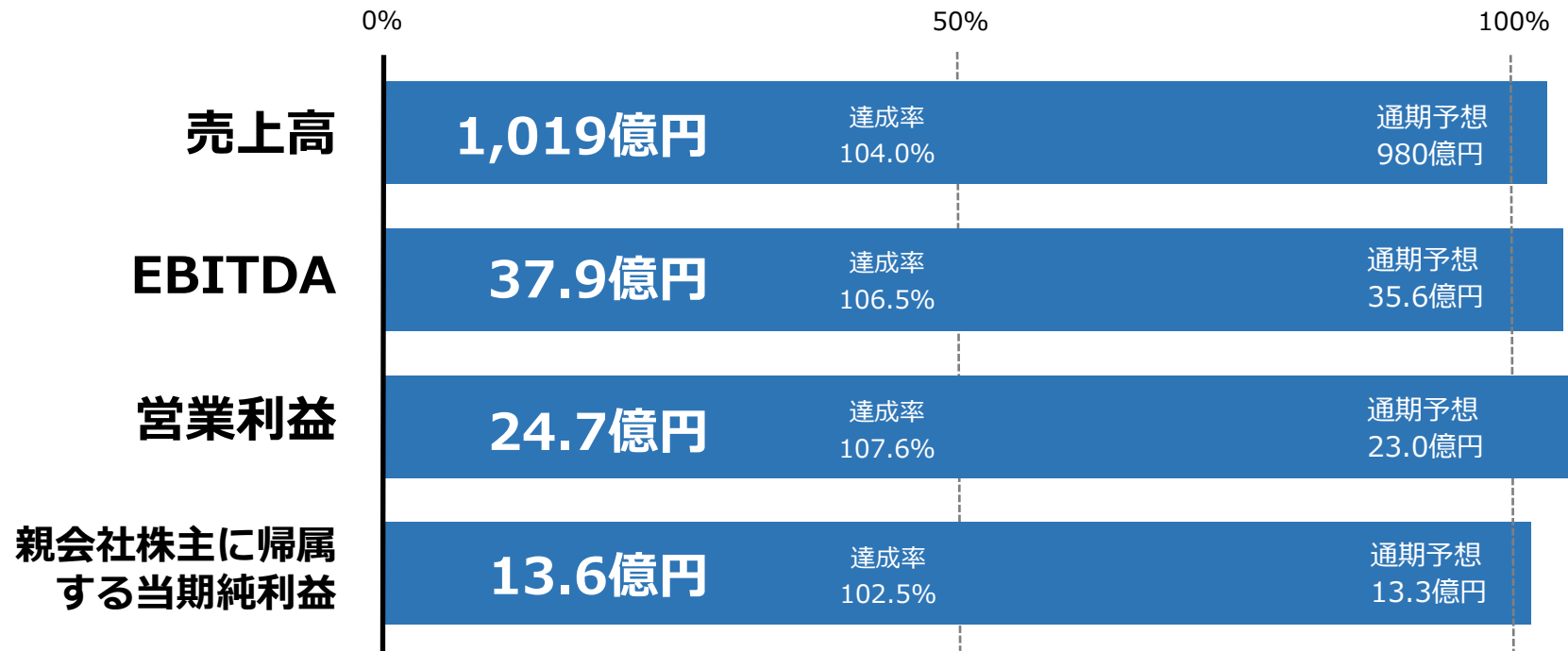
アルトラエンタテインメント

主力のカラーリング事業が計画未達となり減損計上。2026年2月期は固定費削減による業績改善を見込む

※ 特別利益の内訳（エブリスタ売却益 21百万円、投資有価証券売却益 31百万円、一部事業譲渡益他 20百万円）、特別損失の内訳（日本文芸社に係るのれんの減損損失247百万円、アルトラエンタテインメントに係るのれん等の減損損失235百万円、ジャイブの紙事業撤退に伴う事業整理損23百万円、投資有価証券評価損45百万円）

通期業績達成率

✓ いずれの項目においても期初予想を達成



25/2期の株主還元について

- ✓ 25/2期の1株当たり配当は36円（普通配当28円、記念配当8円）を予定し、総還元性向は40%
- ✓ 2025年1月に発表した記念配当（8円）に加え、業績を考慮して普通配当を27円→28円にさらに上方修正

25/2期 期末配当

普通配当 : 28円

+

30周年記念配当 : 8円

||

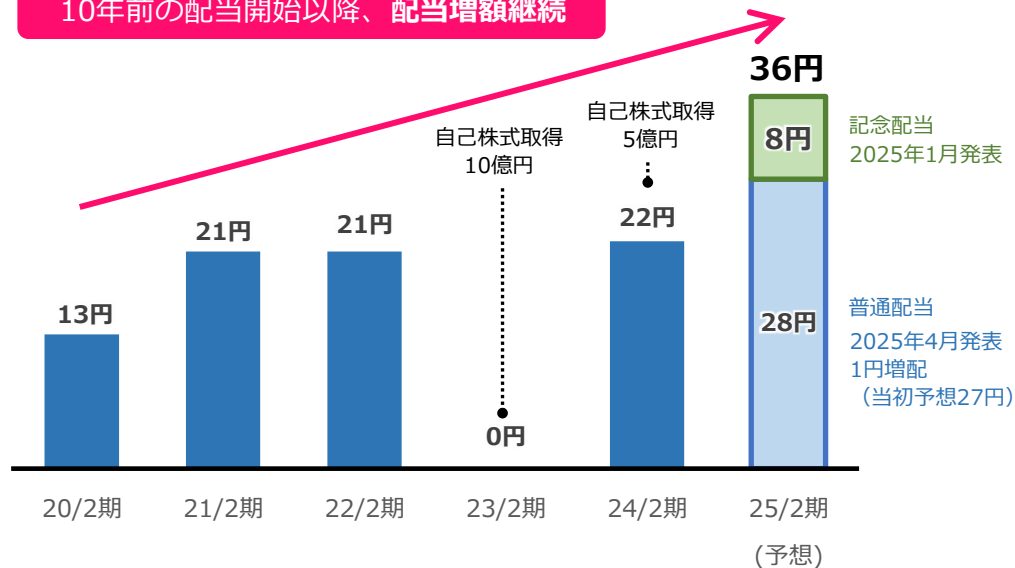
合計期末配当金 : 36円

※2025年4月24日開催の取締役会にて決議予定

25/2期の総還元性向は40%

1株あたり配当金の推移

自己株取得（総還元性向95%）を行った23/2期を除き
10年前の配当開始以降、配当増額継続



1.決算ハイライト

セグメント別売上高

報告セグメント※1

単位：百万円

提供サービスの種類
※1

	電子書籍流通事業	戦略投資事業等		24/2期 通期	25/2期 通期	前期比
		メディアドウ	子会社			
取次	電子書籍取次事業			85,103	92,653	+8.9% (+7,550)
書籍・雑誌出版※2			日本文芸社	2,247	2,020※3	-10.1% (-227)
Webサービス運営	まんがセゾン	FanTop 電子図書館	エブリスタ フライヤー	3,610	3,662	+1.5% (+52)
出版業界向け ソリューション			Firebrand NetGalley Supadü	2,453	2,787	+13.6% (+334)
その他			MD-i※4 アルトラ※4 がんばろう徳島	621	789	+27.0% (+167)
合計				94,036	101,914	+8.4% (+7,877)

※1 報告セグメント・提供サービスの種類の内訳に記載の事業については、その分類に該当する代表的な事業を抜粋して掲載。

※2 出版子会社の売上高のうち、電子書籍取次事業を経由する電子書籍売上を除外した数値を記載

※3 電子書籍の売上等を除外した紙媒体での売上を主体とした数値。再建に伴う新刊抑制・返品受付の局面のため、紙媒体での売上減の割合は、日本文芸社の全体の売上減の割合よりも大きくなっている

※4 MD-i=Media Do International、アルトラ=アルトラエンタテインメントの略

02

業績推移

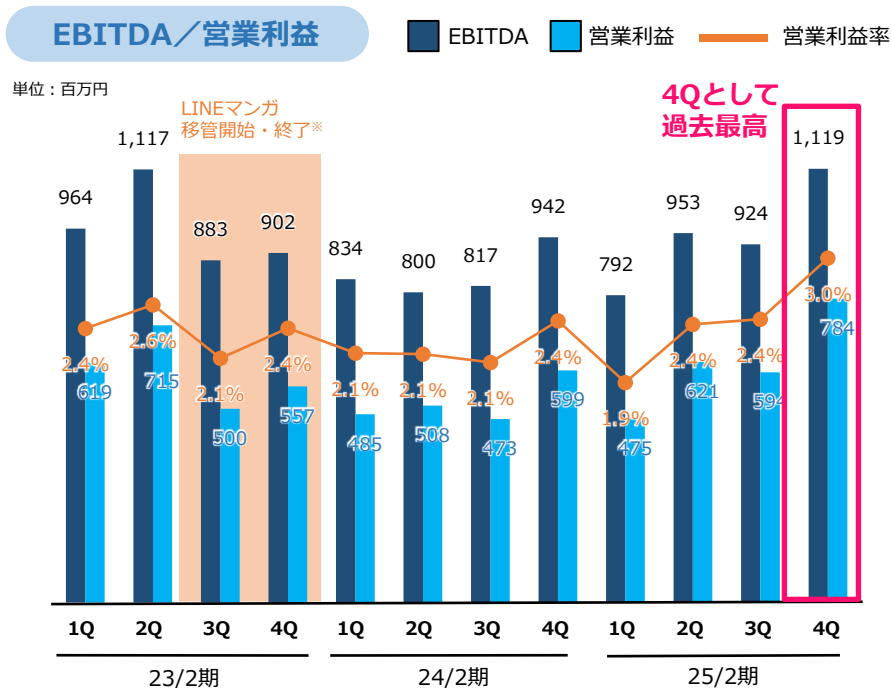
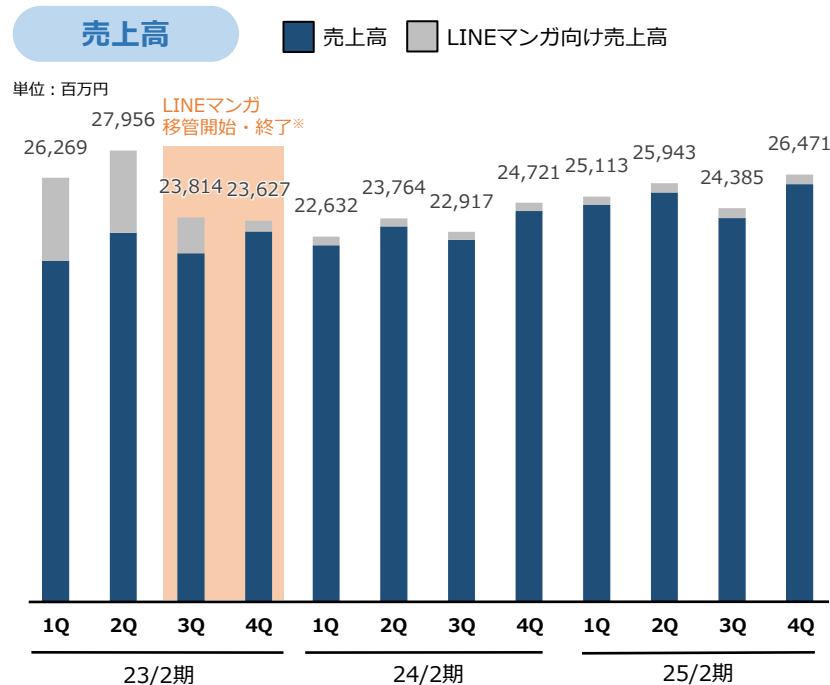
Earnings Trends

2.業績推移

連結業績

概況

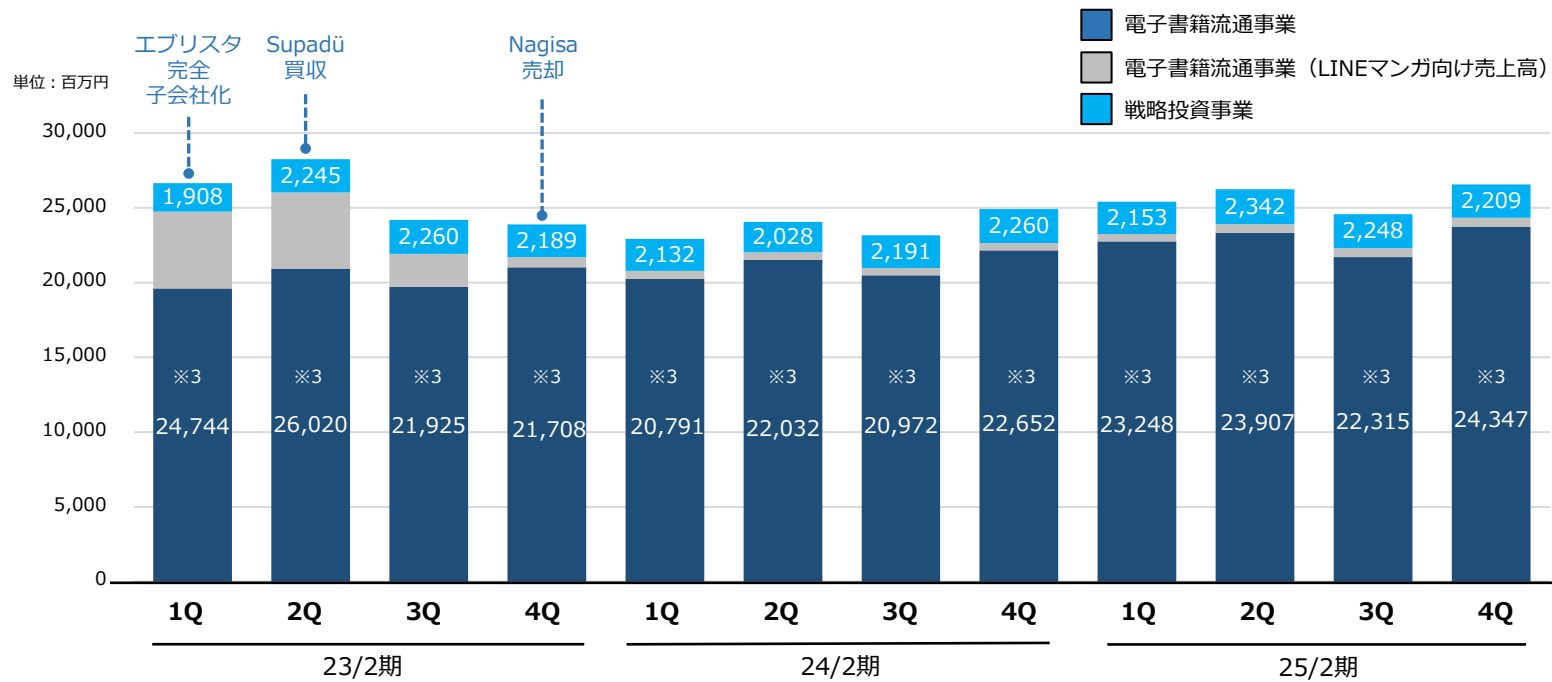
- ✓ 売上高は電子書籍流通事業が好調に推移し、LINEマンガ移管後で過去最高を記録
- ✓ BITDA・営業利益もLINEマンガ移管後で過去最高を記録。2022年2月期2Qぶりに営業利益率3%となった



※ LINEマンガ向け売上高の大半を占める、大手出版社向けのバックエンド業務の移管

売上高推移（セグメント別） ※1

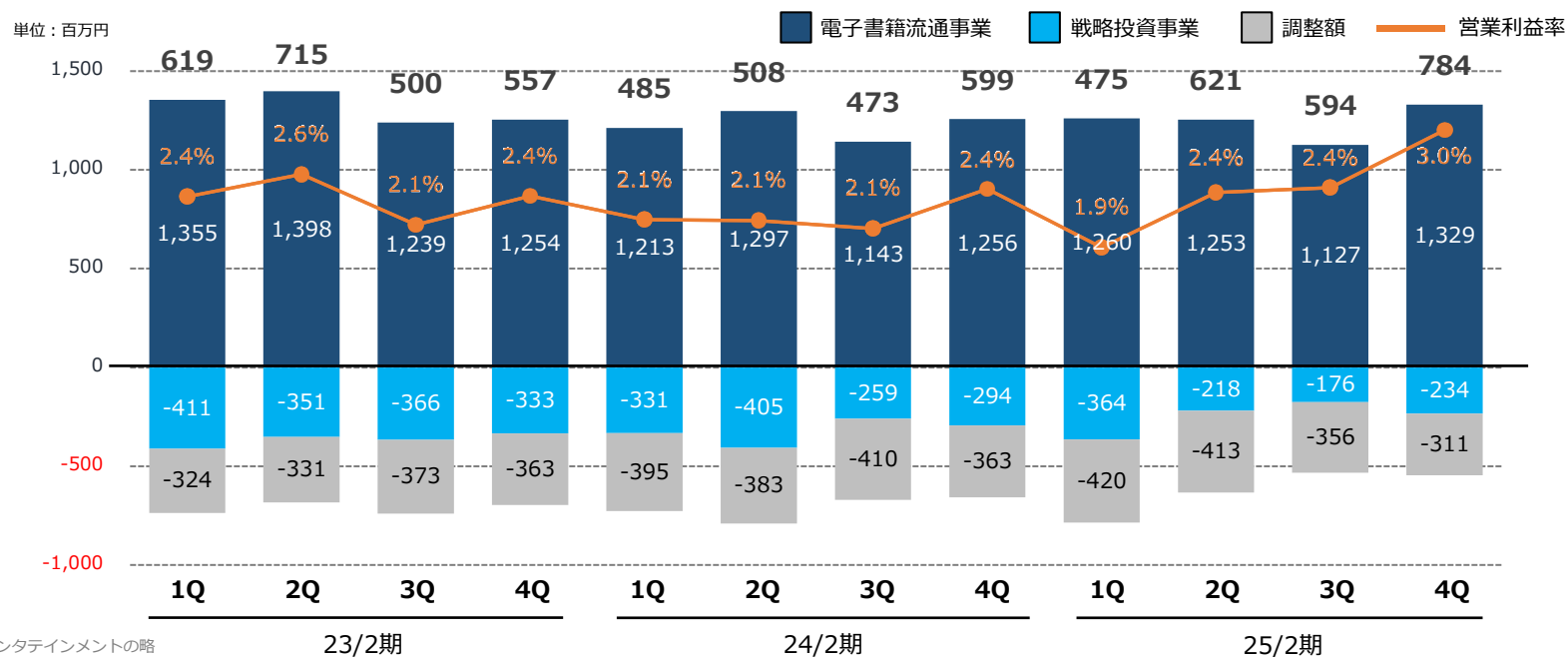
- ✓ 電子書籍流通事業はYoY・QoQとも増収。2024年2月に獲得した新規商流の貢献もあり、LINEマンガ移管後で過去最高を記録
- ✓ 戦略投資事業はYoY・QoQとも減収。IP・ソリューション事業で増収もインプリント事業（アルトラ※2）における減収が影響



※1 売上高は、セグメント間取引等の調整額を含まない金額。各四半期の調整額については、P.26に記載
※2 アルトラエンタテインメントの略
※3 電子書籍流通事業、LINEマンガ向け売上高を含めた額

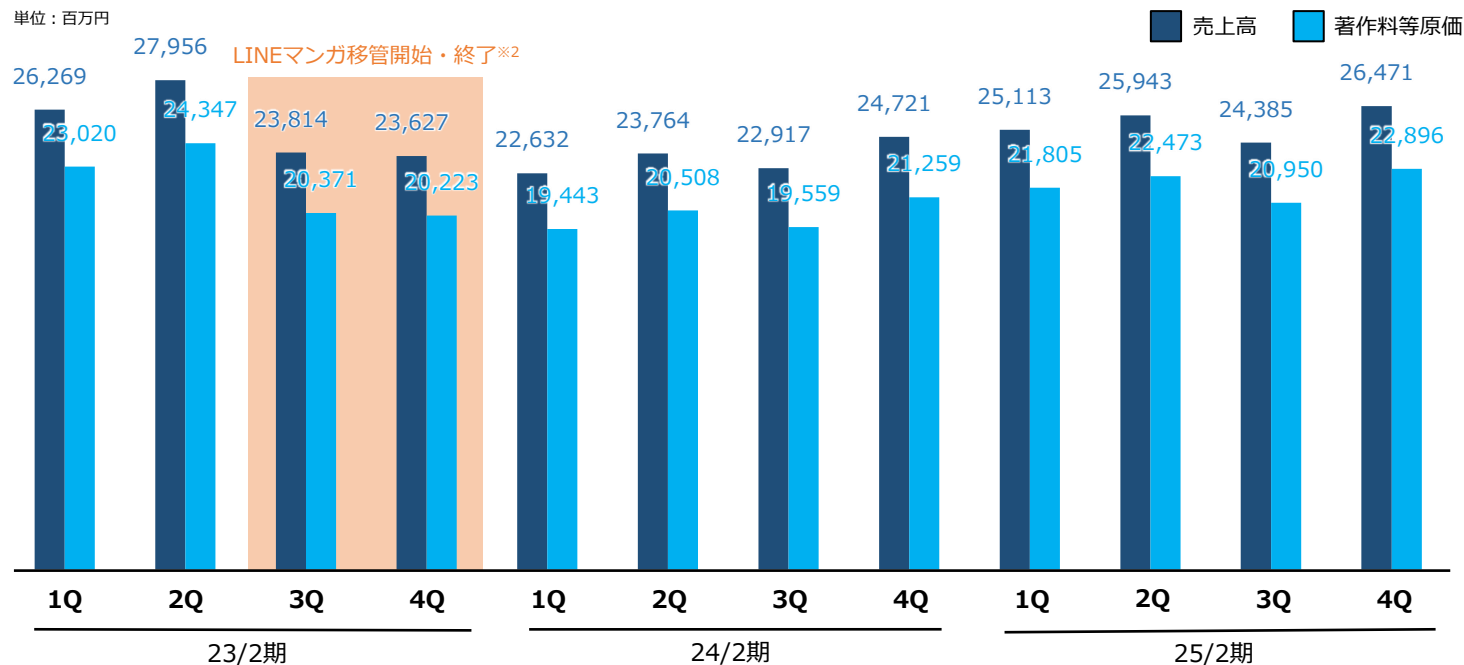
営業利益推移（セグメント別）

- ✓ 電子書籍流通事業は、売上高成長及び運営コスト抑制により増益
- ✓ 戦略投資事業は利益改善基調にあるものの、25/2期4Qはインプリント事業（アルトラ※）の売上減・費用増によりQoQで悪化
- ✓ 調整額には本部費用のほか、2023年10月にB3リーグに参戦／本格始動した男子プロバスケットボールクラブ「徳島ガンバロウズ」の運営法人・がんばろう徳島の損益が含まれている。25/2下期は、がんばろう徳島の営業黒字（Bリーグ参入2年目）により改善傾向



著作権料等原価推移※1

- ✓ 23/2期3Q、LINEマンガの移管による売上高減少に伴い著作権料等原価が減少
- ✓ 24/2期4Q以降は、新規商流等の影響で売上高が増加したことで、著作権料等原価が再度増加傾向

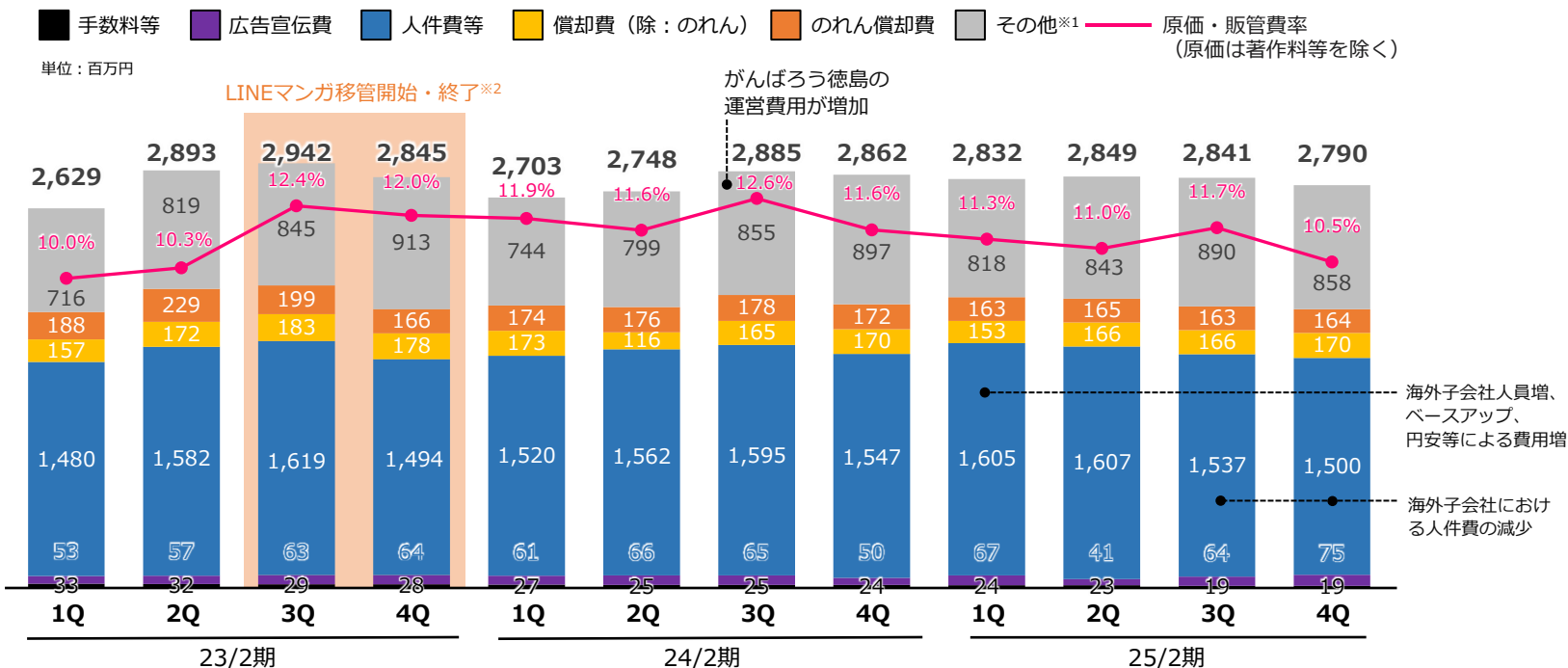


※1 電子書籍流通事業で発生する著作権料等原価と日本文芸社等のインプリント事業で計上される印刷製本原価の合計値推移を記載

※2 LINEマンガ向け売上高の大半を占める、大手出版社向けのバックエンド業務の移管

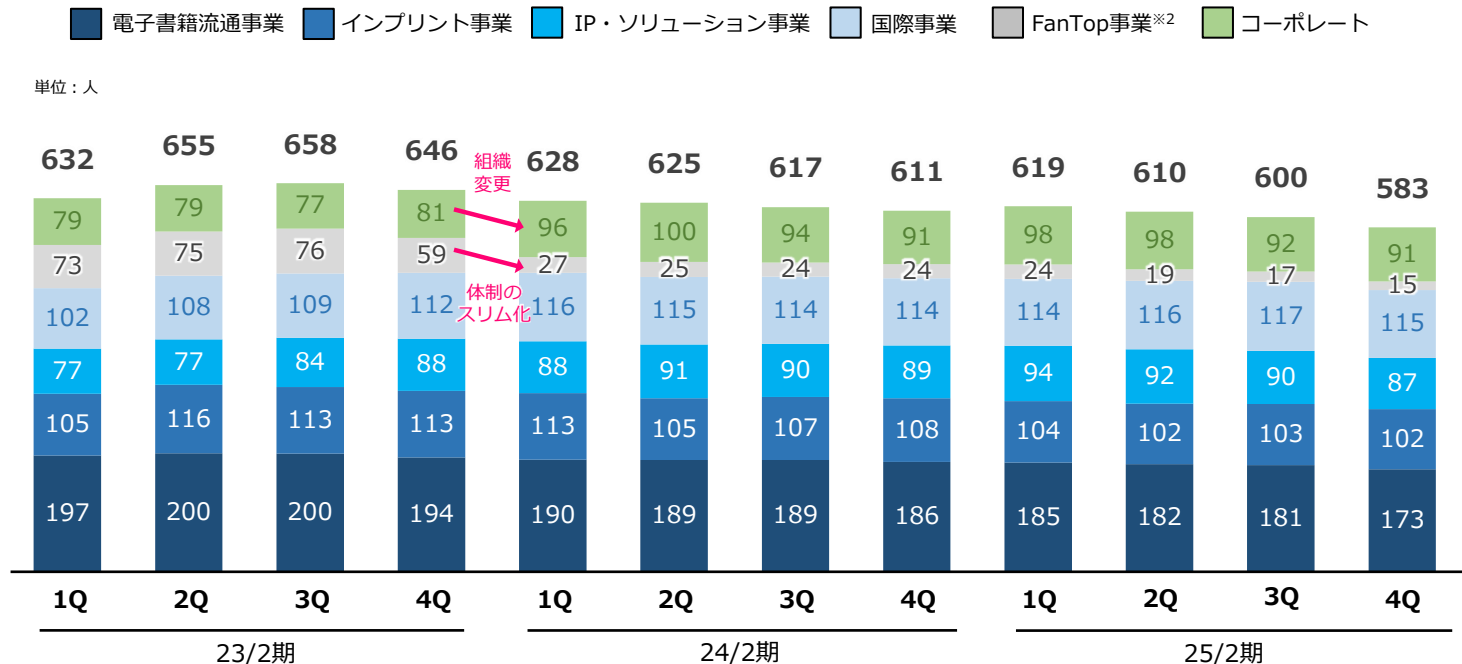
売上原価・販管費推移（著作権等以外）

- ✓ 原価・販管費率：LINEマンガ移管に伴う売上高の減少により、23/2期3Qに上昇
- ✓ 人件費等：生産性向上を図り、全社的な人員数抑制に伴って減少
- ✓ その他：24/2期3Qよりがんばろう徳島の運営費用を計上。シーズンインとなる下期に増加する季節性
- ✓ その他：25/2期2Q以降はメンテナンス等の運用が中心となったことから、エンジニア人件費の資産振替額が減少した影響により増加



従業員数推移※1

✓ 23/2期は採用強化のほかグループ会社買収の影響で増加したものの、以降は事業ポートフォリオの見直しに伴い減少傾向



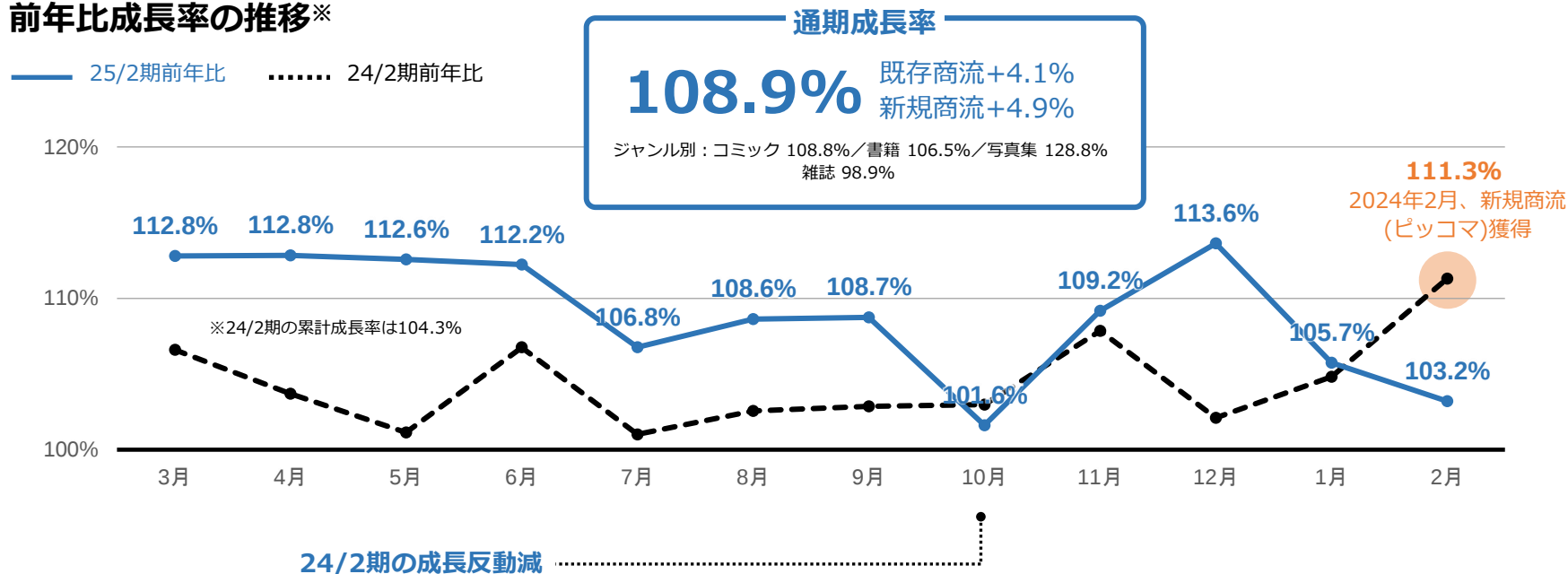
2. 業績推移

電子書籍流通事業

売上高前年比成長率

- ✓ 25/2期累計成長率は108.9%、2024年2月の新規商流獲得により期を通して好調に推移
- ✓ 12月は、年末休日数が例年より多かったこと及び大型キャンペーン好調により伸長
- ✓ 2月は新規商流が一巡したこと及び前年がうるう年で好調となった反動により鈍化

前年比成長率の推移※



※ LINEマンガ分を除いて算出

- ✓ 大手書店における大型キャンペーンの実施により前年の2倍以上の売上を記録
- ✓ 2023年10月スタートのアニメ化作品のヒット

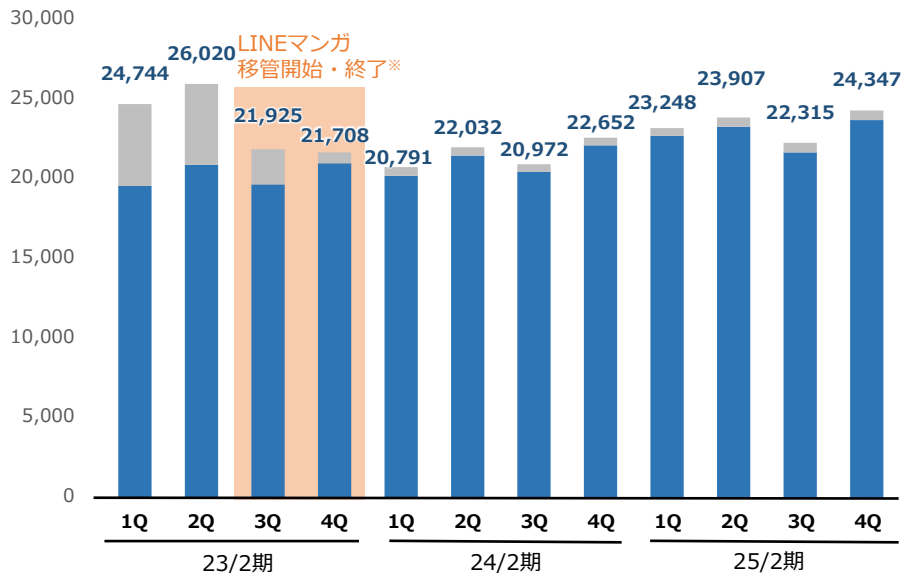
売上高・営業利益推移

- ✓ 売上高は2024年2月に獲得した新規商流の貢献もあり5四半期連続でYoYで増収。LINEマンガ向けを除くと過去最高を記録
- ✓ 営業利益も、25/2期4QはLINEマンガ移管以降で最高益を記録。生産性向上による人員数抑制の影響もあり営業利益率が良化

売上高

■ 売上高 ■ LINEマンガ向け売上高

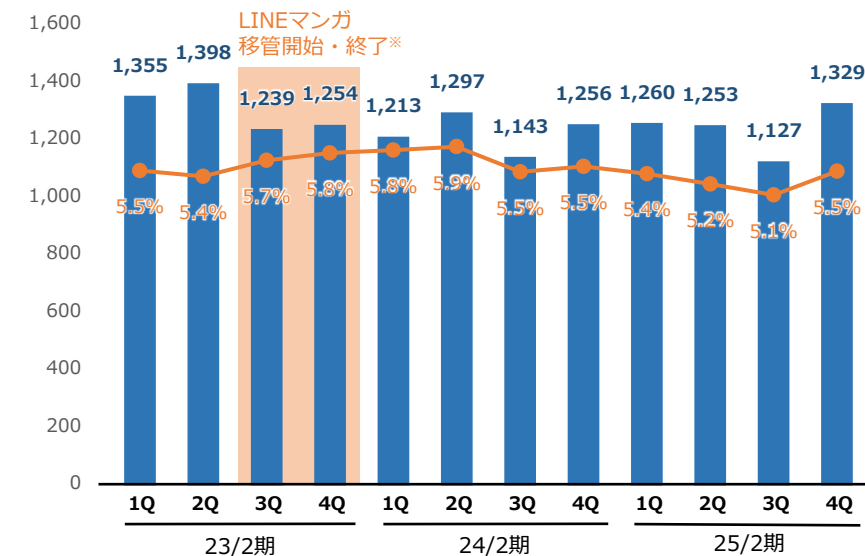
単位：百万円



営業利益／営業利益率

■ 営業利益 ■ 営業利益率

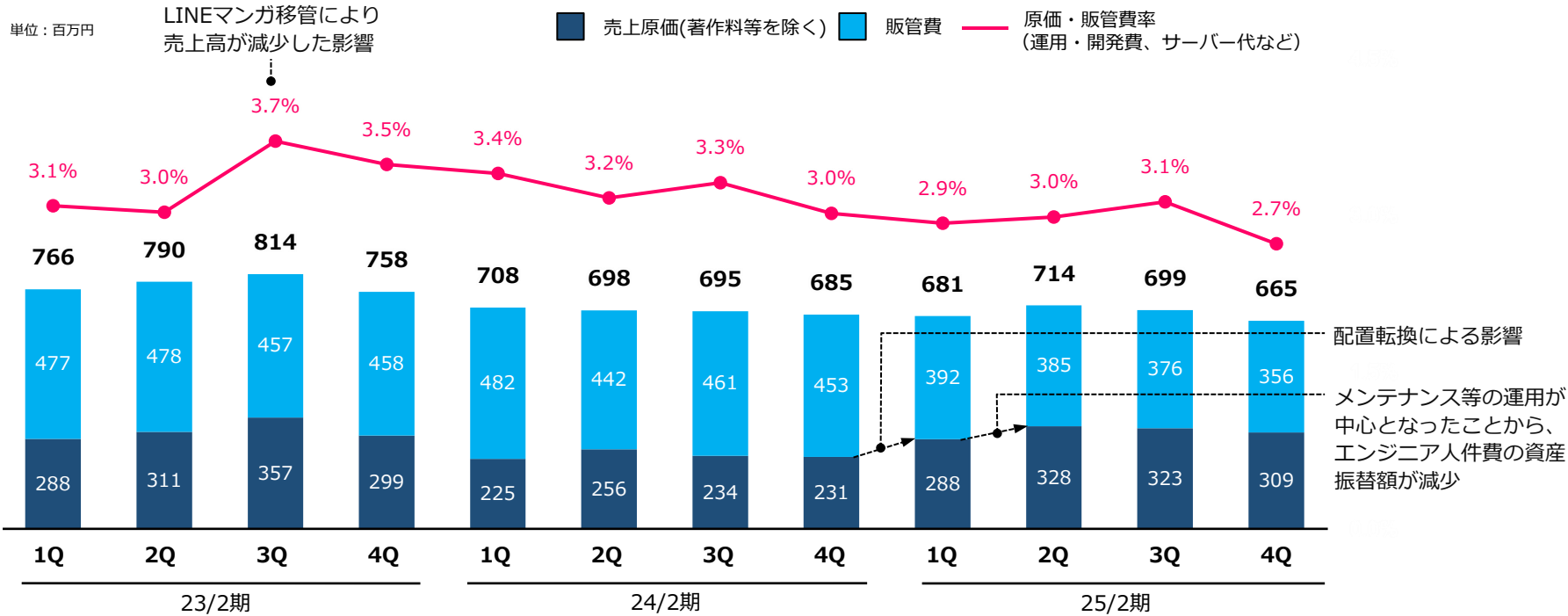
単位：百万円



※ LINEマンガ向け売上高の大半を占める、大手出版社向けのバックエンド業務の移管

コスト構造（著作権料を除く原価・販管費）

- ✓ 著作権料を除く原価・販管費率は、23/2期4Q以降は業務プロセス改善により、原価・販管費の絶対額・率ともに改善傾向
- ✓ 25/2期2Q以降は売上原価が増加。メンテナンス等の運用が中心となり、エンジニア人件費の資産振替額が減少したことによる
- ✓ 25/2期4Qは売上成長及び生産性向上による人員数抑制の影響で原価・販管費率が低下



2. 業績推移

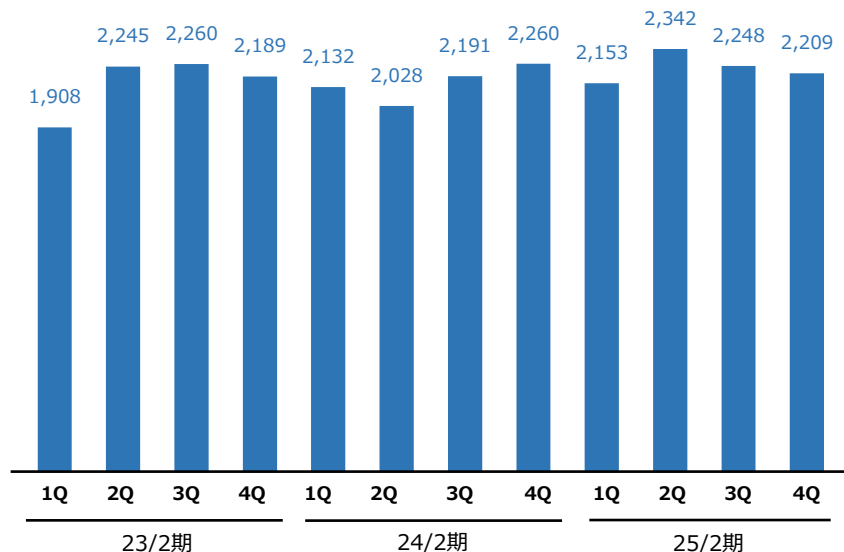
戦略投資事業

売上高・営業利益推移

- ✓ 売上高・営業利益ともにIP・ソリューション事業の改善が貢献するも、インプリント事業の売上減および日本文芸社における新Webサイト開設に向けた先行費用の計上が影響し、QoQでは悪化

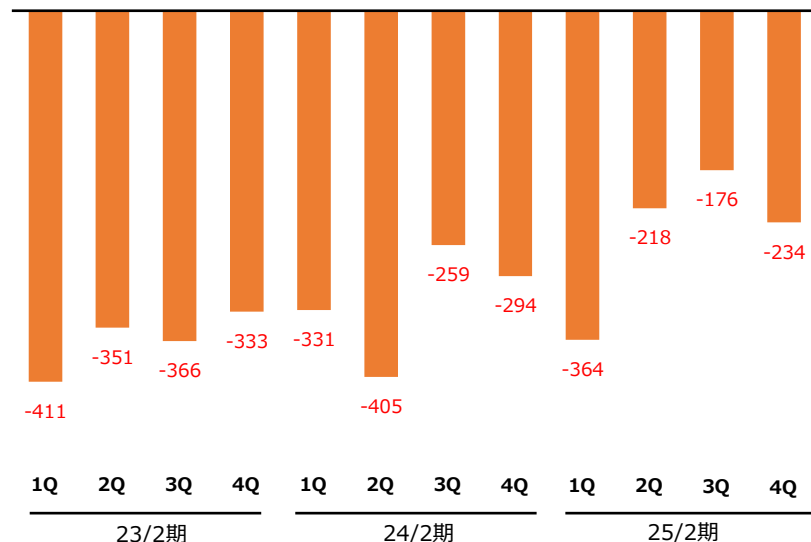
売上高

単位：百万円



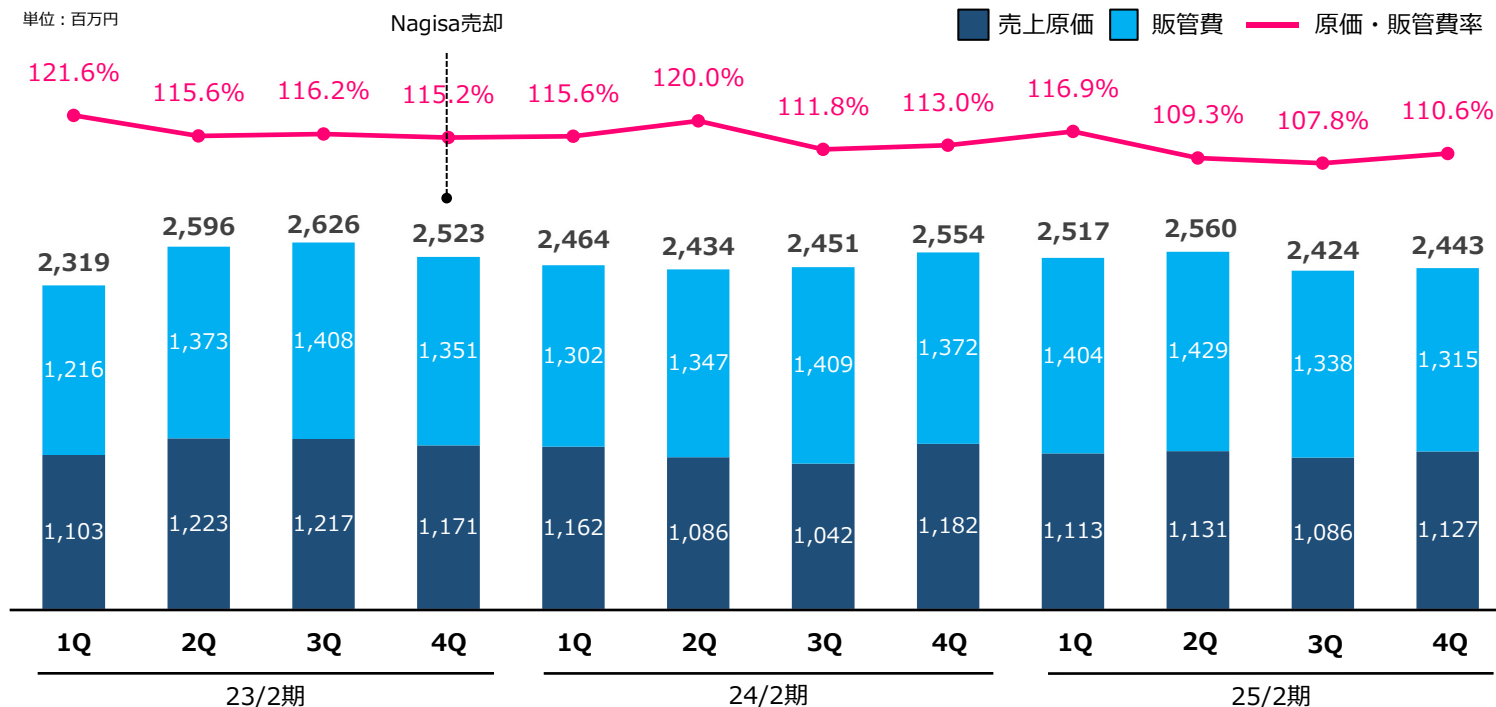
営業利益

単位：百万円



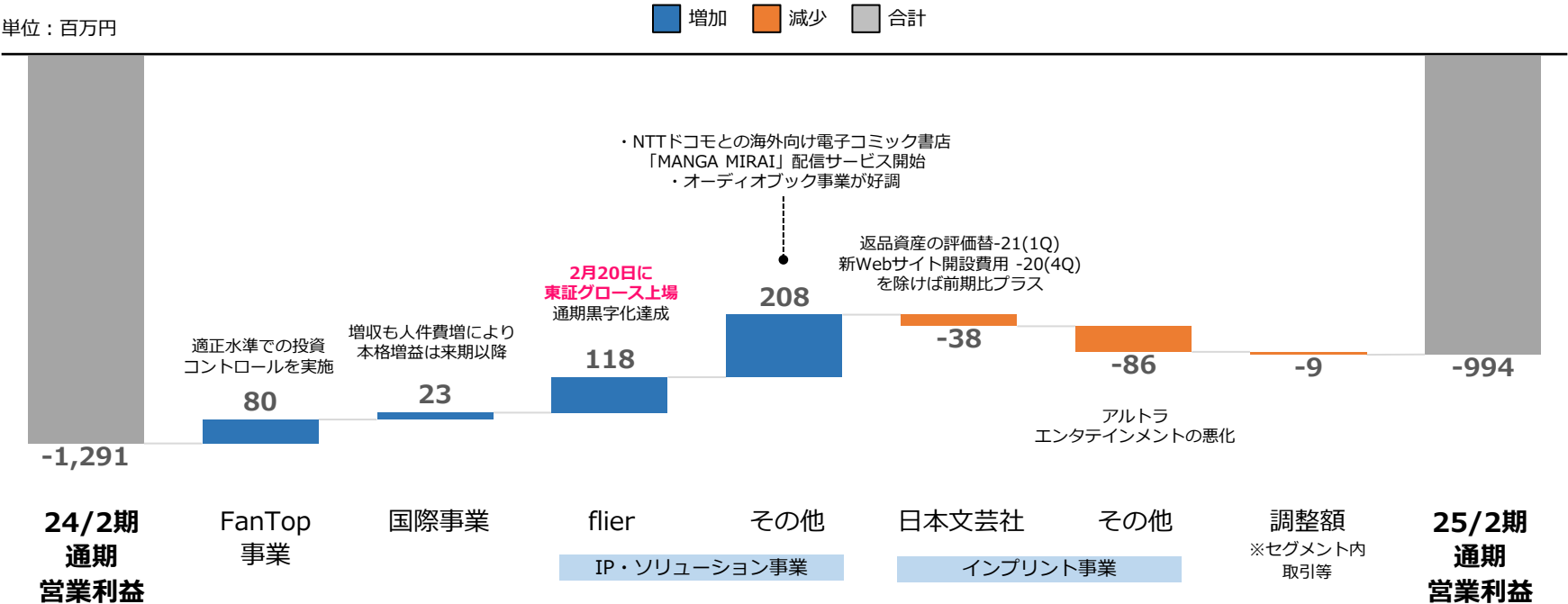
コスト構造

- ✓ 販管費はYoY・QoQとも減少、主に国際事業における人件費が減少
- ✓ 売上原価はQoQで微増、主に日本文芸社において一時的に人件費が増加



営業利益 前年同期比較

- ✓ 戦略投資事業全体では通期で前期比297百万円の利益改善（24/2期は前期比171百万円の利益改善）
- ✓ 適正水準での投資額にコントロールできていることに加え、IP・ソリューション事業が利益改善に寄与。フライヤーは通期で黒字化
- ✓ 日本文芸社の営業利益は1Qに底打ちして改善基調にあり、一過性費用や先行投資がなければ前期比プラスで着地



通期実績（P/L）

単位：百万円	24/2期								25/2期							
	1Q		2Q		3Q		4Q		1Q		2Q		3Q		4Q	
売上高※1	22,632		23,764		22,917		24,721		25,113		25,943		24,385		26,471	
電子書籍流通事業	20,791	91.9%	22,032	92.7%	20,972	90.7%	22,652	91.6%	23,248	92.6%	23,907	92.2%	22,315	91.5%	24,347	92.0%
戦略投資事業	2,132	9.4%	2,028	8.5%	2,191	10.3%	2,260	9.1%	2,153	8.6%	2,342	9.0%	2,248	9.2%	2,209	8.3%
売上原価、販売管理費	22,147	97.9%	23,256	97.9%	22,444	97.9%	24,122	97.6%	24,638	98.1%	25,322	97.6%	23,791	97.6%	25,687	97.0%
著作料・その他原価※2	19,443	85.9%	20,508	86.3%	19,559	85.3%	21,259	86.0%	21,805	86.8%	22,473	86.6%	20,950	85.9%	22,896	86.5%
手数料等	27	0.1%	25	0.1%	25	0.1%	24	0.1%	24	0.1%	23	0.1%	19	0.1%	19	0.1%
広告宣伝費	61	0.3%	66	0.3%	65	0.3%	50	0.2%	67	0.3%	41	0.2%	64	0.3%	75	0.3%
人件費等	1,520	6.7%	1,562	6.6%	1,595	7.0%	1,547	6.3%	1,605	6.4%	1,607	6.2%	1,537	6.3%	1,500	5.7%
償却費等（除：のれん）	173	0.8%	116	0.5%	165	0.7%	170	0.7%	153	0.6%	166	0.6%	166	0.7%	170	0.6%
のれん償却費	174	0.8%	176	0.7%	178	0.8%	172	0.7%	163	0.7%	165	0.6%	163	0.7%	164	0.6%
その他	744	3.3%	799	3.4%	855	4.3%	897	3.6%	818	3.3%	843	3.2%	890	3.6%	858	3.2%
EBITDA	834	3.7%	800	3.4%	817	3.6%	942	3.8%	792	3.2%	953	3.7%	924	3.8%	1,119	4.2%
営業利益	485	2.1%	508	2.1%	473	2.1%	599	2.4%	475	1.9%	621	2.4%	594	2.4%	784	3.0%
経常利益	441	1.9%	496	2.1%	500	2.2%	552	2.2%	490	2.0%	543	2.1%	607	2.5%	718	2.7%
税金等調整前当期純利益	435	1.9%	494	2.1%	606※3	2.6%	-1,097※4	-4.4%	464	1.8%	520	2.0%	611	2.5%	286	1.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	232	1.0%	277	1.2%	351	1.5%	-1,180	-4.8%	244	1.0%	276	1.1%	391	1.6%	451	1.7%

※1 電子書籍流通事業、戦略投資事業に属さない調整額は2024/2期1Q -290百万円、2Q -296百万円、3Q -246百万円、4Q -191百万円、2025/2期1Q -288百万円、2Q -306百万円、3Q -178百万円、4Q -84百万円
※2 電子書籍流通事業にかかる金額は2024/2期1Q 18,870百万円、2Q 20,035百万円、3Q 19,133百万円、4Q 20,710百万円、2025/2期1Q 21,307百万円、2Q 21,939百万円、3Q 20,488百万円、4Q 22,351百万円
※3 株式会社エーアイスクエアの株式譲渡による投資有価証券売却益106百万円を計上
※4 MyAnimeListの第三者割当増資による持分変動利益を110百万円計上。縦スクロールコミック事業に関する減損損失や投資有価証券評価損を465百万円、Supadü Limitedに係るのれんの減損438百万円他、計1,769百万円を特別損失として計上

通期実績（B/S）

単位：百万円

	25/2期3Q末	25/2期末	増減	主たる変動要因
流動資産	36,655	39,960	3,305	
現金及び預金	11,557	13,591	2,034	
受取手形、売掛金及び契約資産	23,101	24,033	932	
固定資産	14,635	13,199	-1,436	
有形固定資産	677	582	-95	
ソフトウェア	651	633	-18	
のれん	5,287	4,198	-1,089	売却及び減損実施による減少
投資有価証券	5,769	5,669	-100	
資産合計	51,290	53,160	1,870	
流動負債	30,827	32,220	1,393	
支払手形及び買掛金	26,641	28,273	1,632	
短期借入金及び1年内返済予定の長期借入金	1,533	1,507	-26	
固定負債合計	3,608	3,231	-377	
長期借入金	2,720	2,358	-362	
負債合計	34,436	35,451	1,015	
株主資本合計	15,903	16,488	585	
資本金	5,990	5,990	0	
資本剰余金	5,768	5,901	133	
利益剰余金	4,193	4,645	452	親会社株主に帰属する当期純利益額の分増加
自己株式	-48	-48	0	
その他包括利益累計額合計	939	1,111	172	為替換算調整勘定の増加
非支配株主持分	10	108	98	
純資産合計	16,854	17,708	854	
負債・純資産合計	51,290	53,160	1,870	

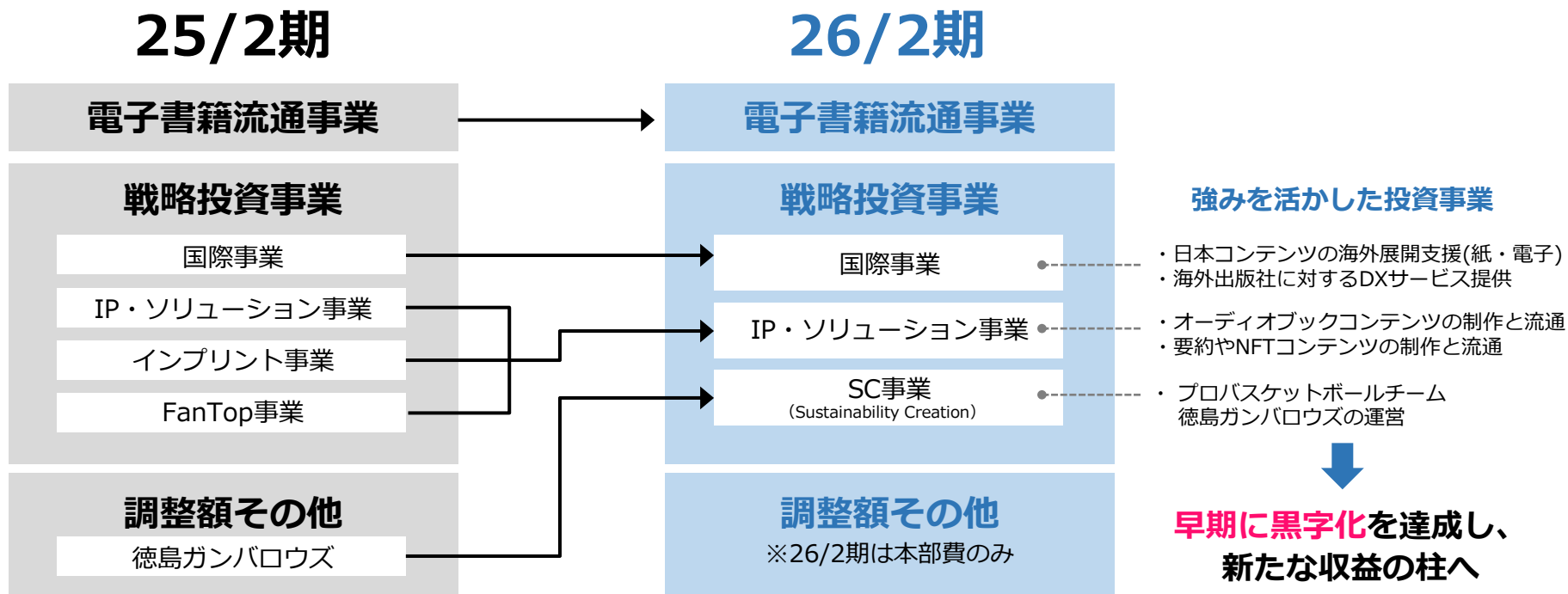
03

26/2期 連結業績予想

Consolidated Earnings Forecast for the Fiscal Year Ending February 2026

戦略投資事業のサブセグメント変更について

- ✓ 26/2期より、戦略投資事業内のサブセグメントを変更。中長期における注力領域を事業として構成
- ✓ 主軸である電子書籍流通事業とのシナジーを高め、新たな収益柱として早期にグループの成長へ貢献することを目指す



26/2期 連結業績予想①

- ✓ 25/2期は、3期ぶりに増収増益を達成
- ✓ 26/2期においては、電子書籍流通事業のシェア拡大、戦略投資事業の各事業進捗による損益の改善、および事業ポートフォリオ見直しにより、引き続き増収増益を見込む。特に売上高と当期純利益、EBITDAは過去最高となる見込み

	25/2期 実績	26/2期 予想	前期との差異
売上高	1,019億円	1,060億円	+ 4.0% (+41億円)
営業利益	24.7億円	27.2億円	+9.9% (+2.5億円)
経常利益	23.6億円	27.0億円	+ 14.4% (+3.4億円)
親会社株主に帰属する 当期純利益	13.6億円	20.0億円	+46.7% (+6.4億円) ※ 持分法適用会社MyAnimeList株式譲渡に伴う 関係会社株式売却益 (531百万円) を計上
EBITDA	37.9億円	39.3億円	+ 3.7% (+1.4億円)
ROE	8.1%	10.9%	+2.8%

26/2期 連結業績予想② セグメント別業績予想

売上高	25/2期(実績)※	26/2期(予想)	差異	増減率
電子書籍流通事業	938億円	976億円	+38億円	+4.1%
戦略投資事業	95億円	98億円	+3億円	+3.2%
調整額	-14億円	-15億円	-1億円	-
合計	1,019億円	1,060億円	+41億円	+4.0%

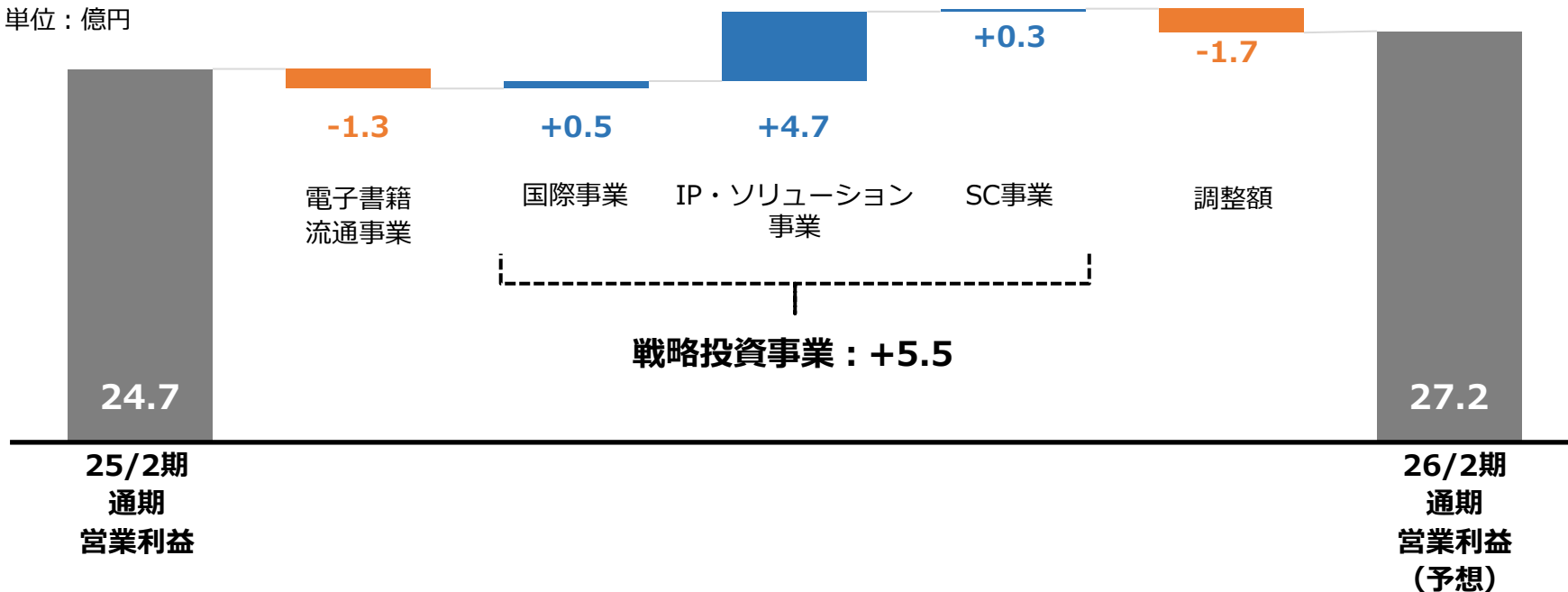
営業利益	25/2期(実績)※	26/2期(予想)	差異	増減率
電子書籍流通事業	49.7億円	48.4億円	-1.3億円	-2.6%
戦略投資事業	-9.6億円	-4.1億円	+5.5億円	-
調整額	-15.3億円	-17.0億円	-1.7億円	-
合計	24.7億円	27.2億円	+2.5億円	+9.9%

※ 26/2期より変更となった戦略投資事業のサブセグメントに基づく実績値

26/2期 連結業績予想③ 業績のポイント

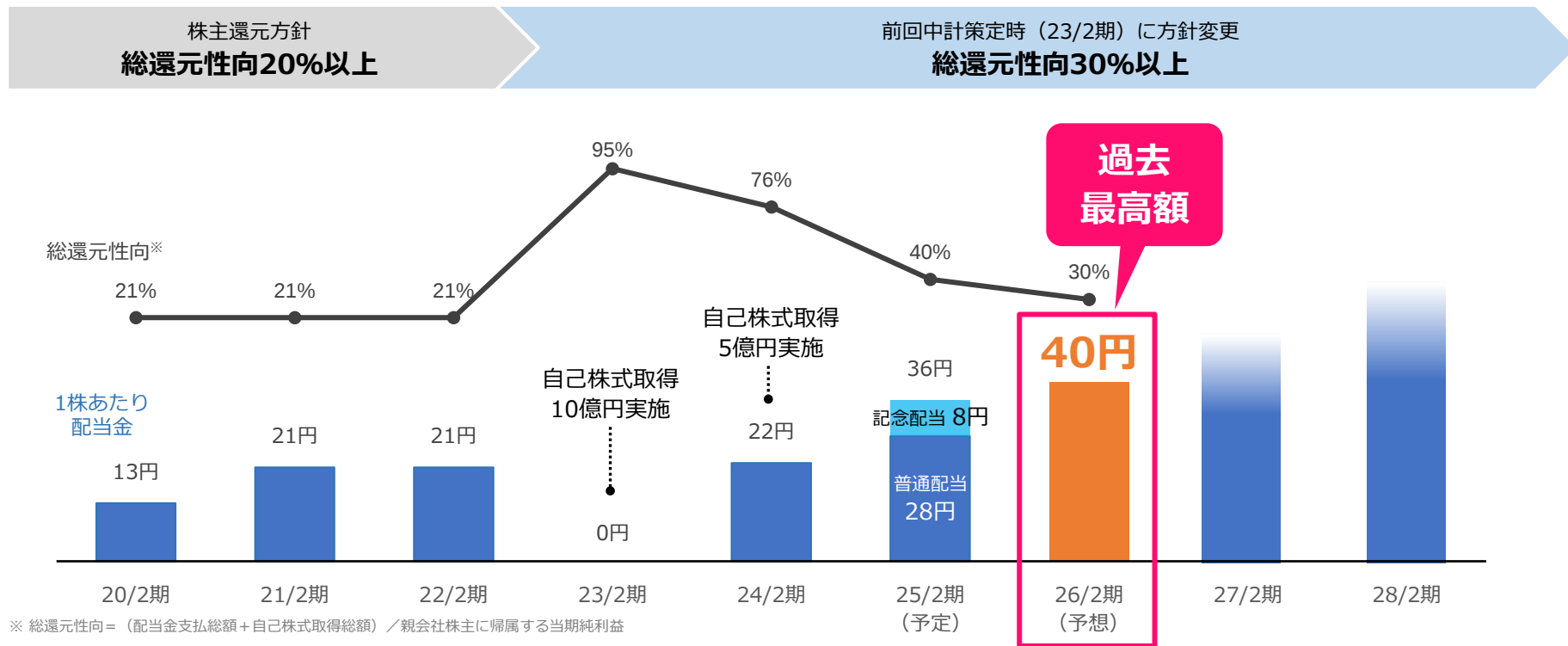
- ✓ 25/2期より増収増益基調へ回帰
- ✓ 電子書籍流通事業は売上高増加の一方、利益率の高いサービスが終了見込みとなる影響等により、一時的に減益となる見込み
- ✓ 戦略投資事業はIP・ソリューション事業を中心に増益見込み
- ✓ 調整額はセキュリティ対策や再成長に向けた体制強化のための本部費用が増加

単位：億円



株主還元方針

- ✓ 26/2期の株主還元は一株当たり配当が過去最高額となる40円を予定
- ✓ 2023/2期より株主還元方針を総還元性向30%以上と定めたほか、自己株取得を実施
今後も株価動向を伺いながら機動的な自己株式取得を実施するほか、段階的な還元率引き上げを検討



将来見通しに関する注意事項と会計監査について

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、本資料内には会計監査人の監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性を完全に保証するものではありません。従いまして、本資料に全面的に依拠した投資等の判断を行なうことは控えていただくようお願いいたします。

<https://mediado.jp/ir>



Media Do